第 2016-15 号

恵みと真理のニュース

2016 年 4 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　主が私達の家庭に与えて下さる恵は数えられなくてただ主の名前呼び、感謝と賛美します

精米所を運営するので忙しかったですが、多くの力を与える親のもとで成長しました。親はイエス様を信じなくても私を教会に通うように許可してくださって子供の頃教会に通いたかすかな記憶があります。

“子供達も教会に来るから、お母さんも教会に来てください。”と執事が話したら母は“私が暇になると行きます。”と答えました。私も教会に行こうと誘っても答えはいつも同じでした。

思春期が来てから高校を卒業をするまで様々な理由をあげて教会を離れました。事実は堅固な信仰がなかったからです。一浪をする時母が事故にあって左腕を失いました。一緒に仕事をする人の過ちで腕が切断されたのです。家族が大きい衝撃と悲しみは言葉では表現でいないほど大きかったし、親はすぐ店を閉めました。母は病院で退院してすぐ牧師と聖徒の訪問を受け教会に通い始めました。長い間教会を離れていた私も妹と共に母の左腕になり教会で礼拝を捧げて、まもなく妹は伴奏者で奉仕しました。

教会に通い始めた後から母は驚くほど変化されました。イエス様を受け入れた後、いつも笑顔でした。誰よりも熱心に主の事をしました。事故を起こした方の貧しい状況をしてからその方から金銭的な保障も受けなくてむしろその方に会うと挨拶をして伝道しました。

“お母さん、事故を起こしたあの方が憎まないですか？”と言う私の質問にこう答えました。“私はイエス様を信じて心が平安になったが、あの方は罪の意識にとらわれて私を避けているね。”といいました。そして“私が仕事を休むと教会に行ってイエス様を信じると言ったとおりになったのだ。私が天国に行ってもこの姿なのか？”としました。私はその母を見習うと心から思っいましたが、主日だけ礼拝に行く弱い聖徒の姿でした。

その後から何年後、私はイエス様を信じる家庭の長男と結婚しました。そして、親と一緒に住んで様々な葛藤を神様に祈る中で子供を産んでからアンヤンに引越ししました。教会を決めようとする時妹に導かれ恵と真理教会を行きました。初めて礼拝を捧げて家に戻る道で旦那に来週にも行って決定しようとしました。すると旦那が“聖書の中心の説教で恵まれるから以前と違って集中して聴いた。”と言いました。私達が探した教会だから、すぐ教会で訪問を要請しました。そうして私達は恵と真理教会の聖徒になりました。

イエス様を信じ支える家庭ですが婚家と様々な葛藤で悲しいと恐れがある中で二番目の子を出産して産後風で全身麻痺の症状も出来ました。子を一人で置くことが出来なくてたまに妹が子供達を見守って家事を手伝ってくれる状況で私はもっと神様を委ねるようになりました。

切に祈って神様の助けを望む時に“ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。 水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず／炎はあなたに燃えつかない。”（イザヤ43：1,2）という愛と権能の御言葉で癒してくださいました。その後から、二ヶ月になる前神様の恵で治療してくださって私の体は以前より健康が回復されました。

その後 IMFの影響で旦那がまもなく失職する状況になりましたが、その状況でも私は首区域長をついて全ての礼拝に参席して児童区域長と成人区域長の職分を受けて熱心に主の事に支えました。二人の子を連れて教会を支え伝道に力を尽くしました。そうしたら、神様は哀れんでくださり愛を与えてくださって旦那が就職する喜びも与えてくださいました。

借金をして小さなマンションを購入することになり、経済的に生活が難しくなって、避けられなく私も職場に通いました。職場に通ってから聖殿で祈ってみ言葉を聞く時間の恵をもっと愛するようになりました。そして、どうしても平日礼拝と主日礼拝には必ず参席して、昼に区域礼拝を参席出来ないから主日礼拝が終わった後、駅で伝道しました。

そのごろ旦那が健康診断を受けて急に倒れました。様々な検査を受けた旦那は血液腫瘍の一種である“血小板多症”という診断を受けました。血小板が多く増える病気で骨髄で出来る奇異な病気だそうです。医者は長く生きると10年以内だからいつも準備をしなければならないとしました。旦那が好きな所に行って、したいのを全部して何も聞いてあげると言い残しました。その時が旦那は36歳私は31歳になる年でした。旦那が職場に病気休暇を出して一ヶ月間休んで神様に切に祈りをするとしました。私達はまずその間、恥ずかしかった信仰の姿を主の前で悔い改めました。祈りをすればするほど神様は牧師の説教を通して慰めと平安な心をくださって治療の希望をくださいました。私は職場を辞めて新しい心と覚悟で感謝する心で主の事がけ専念しました。そのように15年が過ぎました。その間真っ黒だった顔が健康になって忘れかけると行った応急室も今は行かなくなりました。ハレルヤ！

私達の二人の息子は主が育てくださったと言うしかないです。神様の摂理と助けで大学に進学してヨンイン聖殿で小学部と児童部の教師として奉仕しています。それだけでなく神様の摂理で長男は軍宗兵として教会と聖徒の兵達を支えています。安手執事になった旦那は区域長の職分を一番大きくい職分と思い職場でも熱心に伝道します。神様が多くの福を与えてくださいました。来年私達の家族は教会の近くに引越しする予定です。主の前で感謝する事が多すぎです。もっと歳をとる前で自分の時間を主に捧げて献身したい希望があります。

教会で私にざまざまな職分をくださって感謝する心で最善を尽くすため努力しています。もし、教会の職分がなくても主の所に行く日までこの心を持って熱心に主だけ支えて生きるのを決心します。全ての栄光を会様に捧げます。今日も生きておられ働いてくださる神様を賛美します。

［信仰コラム］　捨てるべきの根性と持つべきの根性

＂あなたがたはまた、おのおの部族から、つかさひとりずつを選んで、地を分け与えさせなければならない。その人々の名は次のとおりである。すなわちユダの部族ではエフンネの子カレブ、＂（民数記３４：１８、１９）

根性は根強い性質を意味し肯定的にも使われ、否定的にも使われます。根性は生まれついた性質から始まるが見習って、学び、努力することで生成されることもあります。自分の性格の中で否定的な根性があれば根を絶ち、良い根性があれば深く根差すようにするべきです。

第一、私達が必ず捨てなければならない根性について調べてみましょう。

エジプトで持ってきた糧食が底をついた時に神様がモーセのお祈りに答えられ＂マナ＂を与えられました。貿易をしたり、農業をすることができない状況で毎日空から日用の糧食が降ってくるので喜ばしくて感謝するに限りのないことです。しかし、いつの日か＂マナ＂は不満と不平の種になってしまいました。イスラエルの中に住んでいる群れが貪欲を抱え、イスラエル子孫達も泣きながら同じ行動をしました。出エジプト記の 12 章 38 節にイスラエルの中に住んでいる群れを＂混じった群衆＂だと称しています。彼らは神様に対する信仰がありませんでした。あるとしても神様に仕えることが生活の目的ではありませんでした。神様の思いを知ろうともせず、自分達の欲求充足だけを考えました。すると、自分達が願う通りにできないと神様に向いて恨み不評しました。このような混じった群衆の根性がイスラエル子孫達に伝染されイスラエル子孫達が泣きながら不評しました。このような態度について神様が怒られ、エジプトから出る当時に 20 歳以上の人々はヨシュアとカレブを除いて全てが広野で迷い結局は死にました。

第二、私達が必ず持たなければならない根性について調べてみましょう。

カレブは悪い根性を排撃して良い根性を培養することに手本をみせました。イスラエルの子孫達が 40 年の広野生活を経てとうとうカナン進入を目の前にした時、神様がモーセにイスラエルが占めるようになるカナンの四方境界を言われカナンを分配任務を遂行する各部族の代表者を任命なさいました。しかし、元々イスラエル人でもなくケナズ部族に属した混じった群衆出身であるカレぶがユダヤ部族の代表者に指名されたということは驚くべきで特異なことです。カレブは混じった群衆の出身ではあるが、イスラエルの民に帰化した以降は彼の考え方と私物を見て判断する方式が変わりました。彼はないことより神様が与えてくださったことを考えました。神様がこれから与えてくださることまで考えました。神様を喜ばせることが何であるかを考えました。神様の口約束を通じて判断しました。このような態度がカレブの根性になりました。

40 日間カナンを探ってきてカレブは民達にすべきこととしてはならないことを区分して話しました。要塞化された町であるが背の高い敵によっていじけることなく多数の回し者に怯みませんでした。神様だけに頼って神様の口約束に照らし全てのことを判断し、結論を導出しました。カナン征服戦争の時にも常に先頭に出て勝利の原動力になりました。さらに、85 歳の年にもかかわらず、危険を冒してカナン部族の中で最も気骨が壮大なアナク子孫がいるヘブロンを担い堅固な町を征服しモーセを通じてくださった神様の約束を全て叶えました。カレブは神様が許した業をおろかにせず、全て探して享受することが正しいという考えを持ちました。そして、自分の権利を主張するより自分の責任を尽くそうとする犠牲の精神を持ちました。神様はカレブがケナズ部族の出身であったが、彼から混じった群衆の根性を探すことができず、ひたすら信仰と献身、忠誠を尽くす信仰的な根性があることを見られユダヤ部族の代表になるようお許し、ヨシュアと共にイスラエルの指導者になるよう行ってくださいました。

あることよりないことを数えながら神様に不評すること、神様が与えてくださった恵みの重大さを忘却してこの世を憧れること、キリストの外にいる時に帰ろうとする奴隷の根性です。神様を依頼して口約束をつかみ、信仰で考え信仰で話すことがカレブが見せてくれた信仰的な根性です。皆さんは混じった群衆の根性は徹底に根を絶ち、信仰的な根性は根付くようにしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

お言葉の農業

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

自分の心と考えを言葉や文として表現する方法の中に 譬の法があります。 譬の法はどんな事物をより効果的に表現するために他の事物に当て付けて表現する方法です。 イエス様は奥深い真理を教えながら譬を持って説明する場合がたくさんあります。 新約聖書にはイエス様がおっしゃった譬が 30 個以上も記録されています。

今日の本文を普通は “種を蒔く者の譬”といえる “お言葉の農業”という題目でよく見ようとします。 種を蒔く者が種を蒔く時にその種が道端にも、岩の上にも、いばらの中に落ちるようになれば実ることができなくなるが良い地に落ちて 100 倍の実をとるようになると言いました。 本文の譬を易しくそして完全に理解するようにイエス様が親切にも解くになるキーワードをおっしゃってくださいました。 畑は人の心で、種は神様のお言葉だと教えてあげました。 そして “良い地に蒔かれるというのは善良で良い心でお言葉をきいて守って忍耐で実を結ぶ。” と解説してくださいました。 イエス様のこのような説明を通じて本文に記録された ‘種を蒔く譬’と言う ‘お言葉の農業’に関する教訓というのが分かります。 こんな意味で私たちは皆が農業の者です。 お言葉の農業をよくするために私たちが必ず分かって実践しなければならないことを三つの部分で分けてよく見ます。
先ずに私たちが分からなければならないことは種がまかられないとかよく育つことができない土壌の状態に関する。 この土壌の状態は私たち心の状態を意味します。

第一は、道端のように堅くなった土壌の状態です。

イエス様がおっしゃるのを “種を蒔く者がその種を蒔きに出て蒔く道端に落ちられて踏まれて空の鳥が食べてしまった。” と告げました。
道はいろいろな人が往き来するので押し堅められた地です。 ここに種が落ちれば蒔かないです。 鳥が来てその種を食べてしまいます。 道端のような心と言うのは頑固で硬くなった心を意味します。
心が頑固で硬くようになる理由は驕慢のためです。 驕慢の原因では学識、財物、才能、健康、外見、地位、年などがあります。 世の中の知識が多ければ自分がすべてのものがすべて分かるという錯覚に陥りやすいが人間の知識では神霊なことをわからないです。 財物が多ければ行く所も多くて楽しむことも多いです。 お金で解決される事が多いです。 自信感が過ぎます。 財物による驕慢が神様のお言葉を排斥する頑固で硬く心にならせます。 頑固で硬くした心が沃土になろうとすればからすきでたたいて破らなければなりません。 からすきとくわ役目をするものなどが人ごとに違うことができます。 驕慢にさせる原因を喪失するようになる場合です。 大対に 疾病、破産、失職、裏切られるのがからすきとくわの役目をするようになります。 生に対する虚無感や究極的な問題に対する苦悩がそんな役目をする場合もあります。
感謝の欠乏も心が頑固で硬くになる理由に属します。 エジプトの奴隷の生活から自由を得て神様が約束した企業のガナアン地を向けて行進したイスラエル子孫は出発する時の感激が速かにしぼんでしまいました。 途中に困難が近づけば皆が神様とモセに向けて恨んで不平を言いました。 すると彼らの心が頑固で硬くになりました。 神様がモセを通じてくださるお言葉が彼らの心に席を取る所がなくなりました。 結局神様を激怒させたし神様から捨てられてしまいました。
イエス様が説明するのを “道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、悪魔によってその心から御言が奪い取られる人たちのことである。” と言いました。 道端に蒔かれた種は鳥が食べてしまうと言ったがその鳥は悪魔を示すことであると言いました。

二番目は、岩の上に土がちょっとおおわれている土壌の状態です。

イエス様がおっしゃるのを “岩の上に落ちてから湿気がないので乾いた。” と告げました。
こんな状態の心を持った人はお言葉をきいて情熱的で積極的な反応を現わすが長続きすることができなくてしぼまれてしまいます。 イエス様が説明するのを “岩の上に落ちたのは、御言を聞いた時には喜んで受けいれるが、根が無いので、しばらくは信じていても、試錬の時が来ると、信仰を捨てる人たちのことである。” と言いました。 福音を信じてお言葉どおり生きて行こうと思えば経験するようになる試験があります。 無理解、薄待、疏外される、不当な事、損失を経験させる逼迫があります。 世の中に導こうとする誘惑の手長さあります。
土が薄く覆われた岩のような状態の心にお言葉が根付いて生じた信仰は長く維持されないです。 逼迫や誘惑や患難を乗り越えることができないです。

三番目は、いばらに覆われた土壌の状態です。

イエス様がおっしゃるのを “いばらの中に落ちたのは、聞いてから日を過ごすうちに、生活の心づかいや富や快楽にふさがれて、実の熟するまでにならない人たちのことである。” と告げました。
いばらの中に落ちた種は土が豊かなので根付くがいばらのやぶが一緒に伸びて機運を阻むので結実ができないです。 イエス様が説明するのを “いばらに落ちたということはお言葉をきいた者だから勤める中にこの世の生の心配と財利と一楽に機運が 阻むので完全に実ることができない者”と言いました。 この世の生の心配は信仰を消滅させます。 財物に対する宴心も信仰を消滅させます。 財物に対する貪欲が入って来れば相対的に永生と神様の仕事に対する関心は消えます。 肉体の一楽が信仰を消滅させます。 一楽と言うのは自分の勝手に遊びながら楽しむことを言います。 道端に落ちた種は芽も出ることができずに鳥に食われます。
岩の上の土に落ちた種は根を深く付くことができなくてないで死にます。 いばらが盛んな所に落ちた種は懦弱に伸びて実を結ぶことができないです。

次に私たちが分からなければならないことは多様な種類のお言葉の種があるという事実です。

聖書には神様がおっしゃった幾多の命令があります。 そのすべての命令は私たちの幸せのためにくださった命令です。
概してそのすべての命令には約束が付いています。 聖書の学者は約束を推し量って見て 7 千余の約束があると言います。 愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。と約束があります。 神様の導くことと助けるに対する約束があります。 聖霊の賜物と実に対する約束があります。 イエス様の再臨と聖徒の復活と携擧に対する約束があります。 神様の仕事に力をつくして献身した聖徒が受けるようになる称賛と賞と冕旒冠に対する約束があります。
すべてのものが合力して善を成すようになさるという約束があります。 天国に対する約束があります。
聖徒が神様のお言葉を心の畑に植えなくて収獲を望んだら農業師が畑に種を植えなくて収獲を期待することに違いないです。 種を食器に盛っておいてどんな種類の種があるかどうかをよく分かっていても畑に植えなければ収獲を期待することができないです。 聖書をたくさん読んでどこにどんなお言葉があるかをよく分かることに止めてはいけないです。 そのお言葉を信じなければなりません。 命令の話お聞きした従順しなければならないし約束の話お聞きした信じなければなりません。
聖徒の皆さんは神様の約束と命令を皆信じて従順してたくさん植えてたくさんおさめる体験をするようになるように願います。

最後に私たちが分かって実践しなければならないことは植えた次には作る事が上手なのです。

第一は、信仰の言葉、所望の言葉、愛のものを言って感謝するものを言うように力をつくさなければなりません。
これはまるで肥料のようなことであり十分に水を供給することと同じのです。
二番目は、恨み不平の言葉をつつしむように力をつくさなければなりません。これはまるで雑草と害虫ができないようにすることに違いないです。
三番目は、忍耐しなければなりません。
イエス様がおっしゃるのを “良い地にあるというのは善良で良い心でお言葉をきいて守って忍耐で実る者だ。” としました。 良い心の畑と言うのは謙遜な姿勢に神様のお言葉を素直に収容する心です。 そして信仰と従順の態度として最後まで忍耐すれば必ず口約束の成就を見るようになります。ノアは大洪水に備えて箱舟を予備しなさいという神様のお言葉を信仰で心の畑に植えました。 ところで当代の他のすべての人々はそのお言葉を排斥しました。 ノアは神様のお言葉を 100% そのまま信じて神様の命令どおり箱舟を建造しました。 120 年の歳月を忍耐して待ちました。ついに洪水になったしノアと彼の家族は皆が救われました。 ヘブル人への手紙,11 章 7 節には “信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。”と記録されました。

イエス様が神様のお言葉は種で、私たち心は畑だと明らかに教えてくれました。 心が沃土にならせることは私たちがすべきことです。 種は神様が多様で豊富に準備して聖書に盛ってくださいました。 皆さんは皆がお言葉の農業を熱心にしてください。 そして豊富な収獲の楽しみを享受するように願いします。